



きらめき

kirameki



発行責任者 利根中央病院 病院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL:0278-22-4321(代表) FAX:0278-22-4393
URL:https://www.tonehoken.or.jp/

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。皆様とともに、新しい年を迎えることができましたことをお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウィルスにはじまり、種々の感染症が取り巻いている中、気候温暖化に伴う異常気象や熊害も多く認めています。今年は「丙午(ひのえ・うま)」年です。午は「馬」を指し「成長」や「成功・繁栄」のシンボルとして縁起がよいものとされています。丙は「太陽の光」を意味しているそうです。則ち、丙午の年とは「情熱や行動力が高まり、勢いのある」年とも理解されます。

皆様とともに柔軟に成長する病院を作りあげていくために、地域の皆様・医師会の皆様・行政の皆様と協力しながら日常診療を邁進して地域の健康を守っていく所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。



病院長

関原 正夫

せきはら まさお



午年の年男・年女からご挨拶

あけましておめでとうございます。

私の楽しみは、三姉妹の子ども達とのお出かけと、鉱物標本収集です！今年も、プライベートを楽しみつつ、看護師として地域の皆さんの健康と安心のために、誠心誠意、努めて参ります。



3A 病棟看護師
副主任

小林 祐介

こばやし ゆうすけ



新年明けましておめでとうございます。

本年は午年。健康に気を配りつつ前向きに、そして軽やかに日々を過ごしていけたらと思っています。皆さまにとっても、笑顔の多い一年となりますよう願っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



リハビリ室
作業療法士

浦川 美栄

うらかわ みえ



新年あけましておめでとうございます。

看護師1年目として至らない点も多いですが、感謝の気持ちを忘れず、患者様に寄り添った看護を目指して努力していきます。本年もよろしくお願いいたします。



5A 病棟看護師

中嶋 翼

なかじま つばさ



あけましておめでとうございます。

出かける事が好きです。今年も、しなやかに軽やかに、馬のように出掛けられる一年でありますように…。

そして、皆様にとっても良い年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。



医局事務課
医師アシスト係

大木 真由美

おおき まゆみ





臨床工学室 紹介

臨床工学技士は「医療機器のスペシャリスト」として、人工心肺装置・人工呼吸器・血液浄化装置などの生命維持管理装置を安全に操作し、適切に保守点検を行うことで安全な医療を支える専門職です。

医学と工学の幅広い知識を併せ持つことで、病院内で医療機器の日常点検・定期点検を行うことができます。ペースメーカなど植込みデバイスの点検・設定調整、トラブル対応など、多岐にわたり医療機器管理を担っています。また、機器の高度化に伴い、新しい知識や技術の習得が不可欠であるため、学会や研修へ参加し、情報収集も積極的に取り組んでいます。

当院には現在8名の臨床工学技士が在籍し、血液浄化業務、心カテーテル業務、医療機器管理業務、遠隔モニタリング業務・医療安全業務など多領域を担当しています。各技士が専門性を活かしながら連携し、患者様に安心・安全な医療が提供できるよう、管理体制の充実に努めています。特に血液浄化領域では急性血液浄化の対応、循環器領域では緊急カテーテル治療など、迅速な対応が求められる場面も多く、チーム医療の一員として重要な役割を果たしています。急性期か



臨床工学室技士長

林 貴幸

はやし たかゆき



ら慢性期まで幅広い症例に対応しているため、臨床工学技士としてのスキルアップを図る環境が整っていることも当院の大きな特徴です。

さらに、医療機器安全管理責任者の配置や教育体制の整備により、院内の医療機器が適切に運用されるよう継続的な改善を行っています。少人数ながら専門性の高い業務を担い、多忙な医療現場のニーズに応えるべく、日々の業務に誇りを持って従事しています。地域医療を支える医療機関として、24時間体制で緊急対応にも備え、患者様・ご家族・医療スタッフが安心できる医療環境づくりに貢献しています。

今後も臨床工学技士としての専門性を高め、安全で質の高い医療提供に引き続き努めてまいります。



臨床工学室



透析室



ちょい得な健康のお話 講演テーマ 「知って安心！ 心臓の病気」

11月14日(金)、利根沼田文化会館小ホールにて、利根中央病院循環器センター長の近藤誠医師による一般市民向け公開講座が開催され、地域の組合員を中心に188人が参加しました。

本邦では近年、「心不全パンデミック」と呼ばれるほど心不全患者が急増しています。特に高齢化が進む利根沼田地域においては、心不全を中心とした循環器診療の重要性が高まっていることから、地域の皆様に安心して診療を受けてもらえるよう、2025年4月に循環器内科から名称を変更し「循環器センター」を設立。患者様一人ひとりに寄り添い、地域全体で循環器疾患を適切に管理できる体制を構築することを目指していきます。

循環器センターには、循環器専門医をはじめ、心臓リハビリテーション指導士、心不全療養指導士、臨床検査技師、診療放射線技師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカーなど各専門職が在籍し、循環器疾患を抱える患者様のさまざまな問題に対応しています。

当日は、病院リハビリ室の理学療法士による体操も披露され、参加者が実際に体験できる内容もとりました。講演となりました。



利根中央病院
循環器センター長

近藤 誠

こんどう まこと



リハビリ職員による体操も楽しみました

回復期リハビリテーション病棟 紹介

回復期リハビリテーション病棟は急性期での治療後、在宅復帰や社会復帰を目指しリハビリテーションを行っていく病棟です。医師、看護師、介護福祉士、セラピスト、医療ソーシャルワーカー、栄養士がチームとして構成されており、患者状況を共有しています。回復期リハビリテーション病棟では患者自身が積極的にリハビリを行っていただくとともに、自立支援につなげられるよう患者本人だけでなく、家族を含め、退院後の生活を多職種で協働しながら支援しています。朝起きて夜寝るまでがリハビリとなり、歩行動作のみならず食事、排泄、入浴、整容など日常生活を中心に退院に向け取り組んでいます。また自宅退院の患者には、実際に自宅へ伺う家屋訪問を行い、福祉用具や家屋改修、サービス利用などの検討を患者本人、家族とともにを行っています。

病棟としては年4回病棟レクリエーションとして節分、七夕、運動会、クリスマス会を行い、季節の飾りつけも介護福祉士を中心に患者にも協力してもらい実施しています。長期入院により日にちや曜日、季節感などを忘れないよう声掛けを行っています。患者も参加し、特に運動会は赤組と白組に分かれ毎年とても盛り上がります。

今後も患者、家族のニーズに対応できるよう多職種で関わり、笑顔で退院してもらえるよう努めていきます。



6B病棟
看護師長

塩野 愛性

しおの あい



病棟レク(運動会)

在宅に向けてのリハビリ



病棟スタッフ一同



病院祭 開催報告

10月26日(日)、第8回病院祭を開催いたしました。あいにくの雨でしたが約1000人もの方にご来場いただきました。今年は6年ぶりの開催に加え、新病院設立10周年、生協創立70周年と節目の年であり、全職員一丸となって準備を進めて参りました。

院内からは事務部門、看護部門、技術部門、それぞれの特色を生かしたブースの出店、外部からはミニ電車やキッチンカーの出店、ステージ部門での数々の団体様の出演がありました。お子様からお年寄りの方まで楽しむ様子が見られ、運営側からも喜びの声が上がりました。フィナーレとして餅投げも行われ、院内外



利根中央病院
病院祭事務局長

宮田 岳

みやた がつ



来ホールはご来場の方々に埋め尽くされ、この日一番の盛り上がりとなりました。

コロナ禍を乗り越え、6年ぶりに開催された病院祭には笑顔と活気が戻ってきました。



お囃子体験会の様子



てんぐちゃん和小松姫



ブース出店の様子

災害訓練(多数傷病者受け入れ訓練)

11月1日(土)に災害拠点病院である利根中央病院で総勢約200人が参加し院内災害訓練を実施いたしました。

今回は「利根沼田地域の局地的な地震」が発生し、多数の傷病者発生を想定した訓練で、災害対策本部立ち上げ、トリアージ、全身の観察や緊急処置、検査を行い確定診断、入院・転院までの実践的な訓練が行われました。参加した職員達は、自分の役割が記載してあるアクションカードをもとに真剣に取り組み、56名の傷病者の対応にあたりました。

当院では災害時の対応に特化した訓練を受けた「トリ



災害対策委員会
副看護部長 (DMAT)

宮本 笑子

みやもと えみこ



アージェナース」「トリアージロジ」の育成と継続的な災害教育を行っています。災害は突然起こるものという危機感を持ち、日常的に備えていくことが大切です。利根中央病院の役割を果たしていくことができるよう病院職員一丸となり日々努力していきます。



診療エリア：レッドゾーンの様子



院内災害対策本部立ち上げ アクションカード配布直後の様子